

令和7年度 聴覚支援のあゆみ(活動報告)

飛騨特別支援学校 地域支援センター(聴覚支援)

岐阜県では、令和元年度より飛騨圏域において、聴覚障がい児童生徒の支援充実事業が始まりました。飛騨圏域の聴覚障がい児支援の拠点校として、飛騨特別支援学校が関係機関と連携を図りながら、聴覚障がいのある幼児児童生徒とその保護者、支援者からの相談をお受けしたり、難聴児の在籍園や療育施設、学校への訪問支援、聴覚障がいとその支援についての理解・啓発のための出前授業、職員研修を行ったりしています。

ひだ難聴乳幼児教室

◇みみっこ教室(月1回 9:30~11:00 異年齢小集団活動)

0~5歳児親子が集まり、体操や手遊び、絵本の読み聞かせ、季節の活動等を行いました。参加メンバーによって、毎回、活動グループや内容を工夫しました。

3~5歳児の絵本の読み聞かせでは、絵本を見ながら自分の経験と結びつけて話したり、友達に問い掛けたり、教師がつなぎ役になることで、子ども同士でやり取りする姿が見られました。子ども達の成長と共に、親子活動だけではなく、聞こえにくさがある同年代の子ども同士の活動を楽しむ姿が増えてきました。

今年度から、活動前に『みみっこポイント』として、その日の活動のねらいと意図を保護者に伝えるようにしました。また、その日の活動で、子どもの心が動いた場面を絵に描き、その絵を手掛かりに親子で話をする『えにつき』に加え、今年度は『なんでもノート』を作ってみました。ことばで説明しながら描いた絵や、子どもの心が動いた瞬間の「もの」「場面」を描いた絵などを1冊のノートにまとめ、子ども自身の経験を目で見て確認できる形で残すことで、経験とことばを結び付けていく一つの方法として取り入れました。これからも、それぞれの親子の心とことばのアルバムとして続けてほしいです。

【1年間の主な活動】

	活動内容		活動内容
4月	春みつけ	11月	ゲーム「おっくりくまさん」
5月	虫さがし	12月	絵本「あけてあけて」 ゲーム「クリスマス神経衰弱」
6月	かたつむりとあそぼう	1月	絵本「あけてあけて」 ゲーム「お正月神経衰弱」
7月	ダンゴムシをさがそう	3月	絵本「おんなじおんなじ」 絵本「おおきくなるってことは」
9月	すいかわりをしよう		
10月	いもほりをしよう		



ひだ難聴乳幼児教室 申込者数

0歳児：1名
1歳児：1名
2歳児：1名
3歳児：2名
4歳児：1名
5歳児：1名



◇保護者学習会(年2回)

「先輩保護者と語ろう会」では、みみっこ教室を修了した保護者を招き、就学前に家庭で取り組んでいたことや子どもと関わる時に大切にしていることなどをお聞きしました。また、みみっこ教室保護者からは、今困っていることや就学、進路選択についてなど、さまざまな質問が出て、それらについて参加者で意見交流を行いました。また、親子でやり取りするために使用している物をお持ちいただき、情報交換もできました。

このように、飛騨地区で0歳児から小学生の難聴児保護者のつながりができ、「先輩保護者の話を聞くことができて安心した」「このような会が増えたらうれしい」という感想や「いろいろな人の意見を聞くこと、幅広く難聴児支援に関わる情報を集めることが大切だと思う」との感想もありました。また、療育機関の方も参加して下さり、難聴児保護者の思いを知っていただく機会となりました。今後も、飛騨圏域で難聴児保護者の方々が安心して子育てできるようなつながりの場を設けていきたいです。

日時	内容
8月18日(月)9:30~11:00	「難聴児の就学について」「心とことばを育てる」
2月10日(月)9:30~11:00	「先輩保護者と語ろう会」



訪問支援

	園・療育機関	小学校	中学校	高等学校	合計
実施回数	11	10	3	0	24回

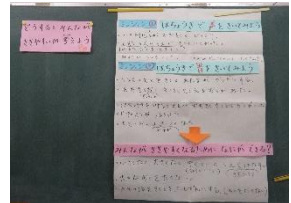
◇授業(活動)参観・担任等との懇談

ひだ難聴乳幼児教室に申し込まれている乳幼児の在籍園や療育機関に出向き、活動参観と担当者との懇談を行いました。また、飛騨圏域の難聴児在籍校にも出向き、授業参観と難聴学級担当者との懇談を行いました。その中で、交流学級での学習環境や支援・配慮についての助言や情報提供も行いました。

◇理解啓発授業

今年度難聴学級が新設されたT市K小学校1年生3クラスと特別支援学級にて、紙芝居を使用して『きこえにくいおともだちのことをしててください』の話をしました。また、1年生各クラスで『どうすると、みんながききやすいかかんがえてみよう』のタイトルで、出前授業も実施しました。

実際に補聴器を付け、いろいろな状況下で音や声を聞く体験を通して「どうすると、みんながききやすくなるか」の意見を出し合いました。意見をまとめたものは、学校で掲示していただきました。



◇総合的な学習の時間「福祉」の授業

H市K小学校5年生クラスで『聴覚障がいのことを知ろう』をテーマに「こんな時、聴覚障がい者に出会ったら、みんなだったら、どうする」と、いろいろな場面を想定し、意見を出し合いました。また、手話や指文字を覚え、友達同士で簡単な会話をする時間も設けました。ちょうど、デフリンピック開催期間中ということで、新聞やニュースで聴覚障がい者が取り上げられており、関心も高まったと思います。

◇職員研修

難聴児の在籍校で、全校の先生方に向けて『きこえにくさの理解とその支援』のタイトルで研修会を実施しました。イヤマフを付けての難聴体験や補聴器体験を通して、ききとり易い環境を整えることの必要性を先生方に気付いてもらい、その上で、支援のポイントを知るという内容で行いました。

飛騨地区難聴特別支援学級等担当者研修会 (主催:飛騨教育事務所)

日時	内容	講師・助言者	会場
5月14日(水)	講話「聞こえにくさへの理解と支援」	飛騨特別支援学校担当者	飛騨総合庁舎
6月～10月	学校訪問(授業参観、懇談)	飛騨特別支援学校担当者 飛騨教育事務所担当者	各学校
10月16日(木)	講話「難聴学級における支援の在り方について」	垂井町立宮代小学校 西村由紀先生	飛騨総合庁舎
12月2日(火)	実践交流会	飛騨特別支援学校担当者	飛騨総合庁舎

今年度は岐阜地区で難聴学級を担当されていた先生の話をお聞きしました。「交流学級で難聴学級担任ができることは限られる為、交流学級担任との事前準備や打ち合わせが大切」「自立活動では、自分を知ることや自分の将来像を描けるような取組(当事者の先輩、仲間との繋がり)が大切」とお話をされました。

飛騨地区難聴なかま交流会(主催:飛騨地区言語・難聴・通級部会)

7月25日、飛騨特別支援学校を会場に、飛騨地区の小中学校難聴学級に在籍する児童生徒7名、その保護者5名、難聴学級担任5名が参加し、交流会を行いました。

子どもチームは、自己紹介やゲーム、テーマを決めての話し合い活動をしました。毎年実施することで子ども同士の距離も縮まり、「この仲間だからこそ話せる」という話題もあったように思います。保護者チームは、主に進路について意見交流をしました。学年が上がるにつれ出てくる悩みを共有できる場となりました。

来年度も、新たな情報を共有したり相談したりする場を設けることで、飛騨圏域の難聴児同士やそのご家族、そして、難聴児在籍園や療育機関、学校と繋がりを持ち、安心して難聴児が育っていけるようサポートしていきたいと思ひます。